

①施策の目的等

施策の名称	施策Ⅲ-4-2自然とのふれあい推進
目的	○自然公園・森林公園や自然学習施設を自然の観察や環境学習の場として活用し、県民の身近な自然とのふれあいを推進します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
自然公園等の年間利用者数	目標値		978.0	978.0	978.0	978.0	万人	自然学習施設の年間入場者数	目標値		621.0	621.0	621.0	621.0	千人
	取組目標値		1,292.2	1,292.2	1,292.2	1,292.2			取組目標値						
	実績値	1,292.2							実績値	629.0					
	達成率	-							達成率	-	-	-	-	-	
定性目標	目標値						%	目標値						%	
	取組目標値							取組目標値							
	実績値							実績値							
	達成率	-	-	-	-	-		達成率	-	-	-	-	-		
平成28年度～平成31年度															
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	○自然公園、自然歩道の利用者数は、出雲大社の遷宮効果が続いたこともあり、利用者数が大きく目標値を上回った。平成28年度以降、出雲大社の利用者については減少も見込まれるが、国立公園満喫プロジェクトや広域観光周遊ルートの認定に伴う利用者の増加要素もあることから、平成27年度実績を上限として目標を再設定する。 ○H27年度の自然学習施設（3施設）の利用者は629.0千人であり目標値を上回ったが、年度間において様々な要件（例：天候条件、休日の状況、施設の修繕状況等）により入場者数の増減が想定されることから、自然学習施設の年間入場者数の目標値としては再設定を行わない。														

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	○自然公園、自然歩道については、施設の修繕を計画的に行い、パンフレットの作成や標識を整備して、県民の身近な自然観察の場を提供している。 ○隠岐ユネスコ世界ジオパークの活用推進においては、県内外への積極的な情報発信を通して、隠岐の交流人口数(統計データのある平成22年度以降、27年度は初の13万人超え)や隠岐を訪れる外国人観光客数(26年度493人→27年度780人、いずれも隠岐汽船利用者のみ)の増加を図っている。 ○サヒメルでは、工夫を凝らした企画展の検討を行い年3回実施している。その他イベント実施により集客に努めた。 ○ゴビウスでは、年3回の特別展開催に加えて、団体向けプログラムや季節ごとのトピック展示等の増加や、観察デッキの改修による屋外スペースの充実等、来館者サービスの向上により集客に努めている。 ○アクアスでは、各種イベントの開催や多くの集客が見込める山陽方面へのPRなど集客対策を実施している。
---	---

④今年度末の施策目的の達成度予測

28年度の施策目的の達成度予測	判断	その理由
A:達成できる B:概ね達成できる(見直す点がある) C:達成は困難	B	○国立公園の利用者数は、出雲大社の遷宮終了により毎年減少傾向にあるが、今後の利用動向は、地域と一緒に利用促進を図ることで、前年度並みの利用実績が予想される。 ○サヒメルでは、企画展の開催や広範な情報発信(新聞、ホームページ等)などにより、県民の身近な自然とのふれあいの推進が図られているが、展示関係施設・設備の経年劣化が進んでいる。 ○ゴビウスでは、従来からのサービスの強化や各種イベントの開催による魅力向上、積極的な情報発信に取り組んでいる。 ○アクアスでは、各種イベントの開催、シロイルカや改修したアシカ・アザラシプールでのパフォーマンスによる展示の魅力向上などに取り組んでいる。

⑤課題の認識

(1)平成31年度末の施策目的の達成状況(予測)	判断	その理由(④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載)
A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	B	
(2)施策の目的達成に向けての課題		○自然公園、自然歩道の安全かつ快適な利用のため、施設の水準を維持・向上していくとともに、倒木処理等の施設改修の対応を早急に行う必要がある。また、広報を強化し、自然好きファンだけでなく幅広い利用者を開拓していく必要がある。 ○隠岐ユネスコ世界ジオパークの活用推進においては、国内外の認知度・外国語対応・来島者の満足度などを更に向上させる必要がある。 ○サヒメルでは、展示施設や設備が老朽化してきている中で、より魅力ある企画展を開催していく必要がある。三瓶小豆原埋没林公園は、保存処理対策を順調に進めることとガイダンス施設の整備が課題である。 ○ゴビウスでは、水生生物の飼育・展示という施設の性格上、設備機器の小さな不具合でも運営の可否に直結するため、速やかな修繕及び設備更新を行う必要がある。また、開館15周年を迎えた今、新鮮な魅力を発信し続けることが求められている。 ○アクアスでは、魅力あるイベント等の企画・実施、効果的なPR活動の実施、計画的な施設・設備の修繕、更新が必要である。

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	○国立公園満喫プロジェクトに「大山隠岐国立公園」が選定されたことにより、鳥取県、岡山県と連携して、インバウンドをはじめとした公園利用者の増加を図る。 ○自然公園、自然歩道については、施設老朽度や利用状況などの現状を把握し、計画的な維持修繕を図る。あわせて、市町村の協力やボランティアによる整備等によりコストの削減を図る。また、標識整備等により利便性向上を図り、自然歩道のPRやマスコミ等の協力により広報を強化することや、インバウンド拡大に向けた利用環境の整備を進めることで、利用者の増加につなげていく。 ○隠岐ユネスコ世界ジオパークの活用推進においては、情報発信の強化・多言語対応の強化・来島者の満足度向上・地域の啓発向上などの分野を柱とする具体的な事業実施を行う。 ○サヒメルでは、企画展の充実や、学校、他の教育施設との連携を強化する。「三瓶青少年交流の家」利用者の研修利用も幅広く誘致する。また、インバウンド観光客の促進策も検討し、外国人対応等の施設修繕を図る。 ○ゴビウスでは、施設の長期的な維持保全を念頭に、保全・改修費を含めたコスト低減の見地に立って修繕を行っていく。また、安定した入館者数を確保するため、隣接の宍道湖グリーンパークと連携した企画・広報を行うとともに、引き続き来館者サービスの向上に取り組む。 ○アクアスでは、魅力ある展示の検討・実施、中国5県から瀬戸内海沿岸へのPR活動の展開や近畿エリアでの誘致活動の実施により集客力の向上を図るとともに、長寿命化計画に沿った計画的な施設の修繕・改修などについて引き続き取り組む。
---------------------	--

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	施策Ⅲ-4-2自然とのふれあい推進				
-------	-------------------	--	--	--	--

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	県立しまね海洋館の管理運営	日本海を中心とした水生生物の間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。	189,082	189,079	しまね暮らし推進課
2	自然公園管理事業	安全で快適な利用の確保を図る。	41,077	72,209	自然環境課
3	中国自然歩道管理事業	安全で快適な利用の確保を図る。	22,781	61,015	自然環境課
4	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	360,407	308,022	自然環境課
5	花ふれあい公園事業	あらゆる世代が四季を通じて「島根の花」に親しみふれあえる暮らしを実現するため、花に興味をもつ機会を増やすとともに、花のPR及び花きの消費拡大を図る。	92,394	85,315	農産園芸課
6	宍道湖自然館管理運営事務	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通して、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	114,539	110,787	水産課
7	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	平成25年9月に世界認定となった隠岐ジオパークの振興や活用推進を支援するとともに、平成29年度の世界再認定に向けた取組みを推進する。	188,426	165,292	自然環境課
8	森林林業体験活動推進事業	森林とふれあうことを通じて森林に対する理解を促進する。	40,269	42,358	林業課
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					